

行 っ て こー わ い 会 っ て こー わ い

「かんざき塾」

神崎の昔と今を
未来につなげる

No. 77

「古里 神崎の昔と今」をテーマに、本年度は子どもたちを中心に郷土学習している「かんざき塾(主宰：高石勤さん)」。大人の塾生も加わった、第7回目の行事は「どんど焼き」です。

無病息災や家内安全を祈って、全員で2礼2拍1礼を行った後、約5メートルの高さに組んだやぐらに、点火。正月飾りなどに燃え移り、見事大きな炎が立ち上がりました。神崎では、大掛かりなどんど焼きは行われておらず、昨年度実施したのが初めてといえます。

「以前、しめ縄飾りがごみで捨てられるのを見て…。伝統を廃れさせてはいけないと思って始めました」と年中行事への思いを熱く話す高石さん。どんど焼きで祭祀を務めた、塾生の水口孝雄さんも思いは同じです。

「自分たちが知っている昔のことを伝えたい。昔は神崎でも色々な行事が行われていた。それらを未来につなげていきたいんです」

そうした思いはしっかり、子どもたちにも伝わっています。松山から引っ越してきたという中越朱里ちゃんは「松山にはなかったものがたくさんある。年中いろいろな行事を教えてくれて楽しい」と笑顔を見せます。

「来年かんざき塾は7年目を迎えます」と話す高石さん。神崎の昔と今を未来につなげるために、「もっと続けていきたい。郷土愛を育み、地域の絆を強め活性化を目指したい」と意欲を見せていました。



1 みんなで火を囲み、竹串に刺した丸餅を焼く

2 大きな炎が立ち上がる。「パチパチ」と竹が割れる音は、初春の風物詩だ

▼編集後記

かんざき塾を取材しました。しめ縄飾りがごみで捨てられていたことにショックを受けたという高石さん。「どんど焼きのことを知らないのかな」と残念そうに話す姿が印象的でした。思えば私が子どもの頃は、しめ縄飾りが車や自転車にまでつけられるほど普及していたように思います。今回の記事が「しめ縄飾り」や「どんど焼き」などの年中行事が、再普及するきっかけに少しでもなればいいなと思います。(松田)

取材に持っていくノートが新しくなりました。ふと、今までのノートに書いてあるインタビュの言葉を見返してみると、「自分が努力していないと喜びはない」「先を見越して意識しなければならぬ」と、「そうだった。こんな風に話してくれたな」と再認識できるものがたくさんありました。これは、防火でも同じです。知っているとかわらず、再認識の意味で見てもうえたらと思います。(久保)

Proud! Japan

※日本文化の発展を支援しよう

広報まさきに有料広告を載せませんか？

広報まさきに掲載する有料広告を募集しています。希望者は、町ホームページをご覧ください。

◆広告掲載枠

広報まさきの裏表紙
(下欄3枠、1枠の大きさは縦40ミリ×横60ミリ、フルカラー)

◆配布状況

毎月1日発行。発行部数1万1500部。町内全世帯へ配布

◆広告掲載料

1枠、1月当たり2万円

☎総務課広報情報係 ☎985-4132